

修士論文概要

ウズベキスタン共和国における障害者の社会参加に負の影響を与える要因分析

－文献研究を中心として－

19MD0098

杉山 雄二

研究の目的と方法

本研究の目的は、ウズベキスタン共和国における障害者の社会参加に負の影響を与える要因を明らかにすることである。

本研究の意義は、ウズベキスタン共和国における障害者の社会参加拡大に示唆を与えることである。

社会参加とは国や文化だけでなく、性別・年齢・思想・経済状況などにより変化する概念であり、学術分野ごとに様々な文脈で論じられている。筆者は、障害者にとって社会に参画することで、自己肯定感を再認識し、達成感を得るために必要なプロセスであると考えます。

本研究では分析の枠組みとして ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health、以下 ICF) を採用しており、社会参加は「社会とは実際の生活・人生場面と、そこへの関わり」として解釈する。調査対象はウズベキスタン共和国の障害者であり、彼らの社会参加を促すためには障害をできる限り排除する必要がある。そのために、参加に影響する環境要因を明らかにしていく。

筆者の理学療法士としてウズベキスタン共和国での活動経験を背景に行なっている本研究では、研究対象地域における障壁を明らかにし、社会参加に影響する要因を書き出すこととする。

研究方法としては、ウズベキスタン共和国における障害者の社会参加の実際を扱う論文や国際機関の文書、また Web 上で公開されている障害を扱う記事を参照し、分析・考察した。障害者の社会参加を扱う論文を WHO (World Health Organization)、United Nations Uzbekistan の文献や Google Scholar、CiNii、EBSCO を活用し、各学術分野の論文を検索した。同学術分野における多数の論文を参照した上で、文脈や用語を整理し、社会参加に関連する内容を考察した。

また倫理的配慮として論文の著作権を尊重し、原論文に忠実であることに努めた。

ICF における「環境因子」に着目し、それぞれ文献調査の結果から導かれた日常生活における課題の要因分析をした。ウズベキスタン共和国の文脈における障害者の社会参加に影響する要因、特に「環境要因」に焦点を当てる本論文において、主に ICF 分類を参照して文献調査を進めていく。社会参加に影響する要因を ICF 分類で捉えるにあたり、アフリカ地域の障害者の社会参加を調査した先行研究を参照した。

ICF の枠組みにおいて、環境要因は、その人の社会経済的状況に関する情報が含まれるが、その人が所有するものに関する情報は含まないと言及されており、ICF には経済的資源や家族状況など健康問題に影響することが含まれていない。障害者の社会参加の要因を分析する上では、貧困や、ジェンダーによる複合差別などについての視点が不可欠であるが、ICF の枠組みでは貧困やジェンダーの課題を捉えきれない。したがって、その点が本研究の限界である。

論文の構成

第1章 はじめに

- 1.1 研究の背景
- 1.2 問題の所在
- 1.3 研究の目的と意義
- 1.4 研究の方法
- 1.5 論文の構成

第2章 本研究の分析枠組み

- 2.1 障害とは何か
- 2.2 社会参加とは何か
- 2.3 ICF 使用の手順

第3章 障害者の社会参加に関わる文献調査

- 3.1 障害者の社会参加に影響する要因
- 3.2 環境因子に関する文献調査
- 3.3 小括

第4章 ウズベキスタン社会の概要

- 4.1 ウズベキスタン共和国の基本情報
- 4.2 ウズベキスタンにおける家族や社会のあり方
- 4.3 ウズベキスタン共和国の障害者の現状
- 4.4 小括

第5章 ウズベキスタンにおける文献調査

- 5.1 障害者権利条約の変遷と社会保障
- 5.2 伝統的な障害観
- 5.3 物理的な生活環境
- 5.4 地域コミュニティ・マハッラ
- 5.5 障害者の就労状況
- 5.6 女性障害者の現状
- 5.7 調査結果と小括

第6章 分析と考察

- 6.1 分析手続き
- 6.2 環境要因に主眼を置いた分析
- 6.3 考察

第7章 結論と今後の課題

- 7.1 結論
- 7.2 可能性と課題

<日本語文献一覧>

<日本語インターネット資料一覧>

<英語論文一覧>

<英語インターネット資料一覧>

<ロシア語インターネット資料一覧>

<図表一覧>

論文の概要

本論は7つの章で構成されている。

第1章では、研究の背景と問題の所在、研究の目的と意義、研究の方法、論文の構成などを記述した。

第2章では、本研究の分析枠組みであるICFの使用手順と、その課題について記述した。ウズベキスタン共和国における障害者の社会参加に影響する要因を、国際生活機能分類ICFを用いて分析した研究は少なく、かつ海外の事例として取り上げたものはなかったため、その点が本研究の新規性である。

本論で頻出する「障害」「社会参加」の定義と、本論における障害と社会参加の捉え方について記述した。障害は、個人の機能的障害によって生じるのではなく、物理的な生活環境や取り巻く人々の意識上の課題など、社会の側面からも影響を受けるものであり、環境因子と個人因子との相互作用のうち否定的な側面を表すものとした。本論において社会参加は、生活・人生場面への関わりのこととした。また障害と貧困や、ジェンダーと障害の影響についても記述した。社会参加に影響する背景として、法令や条約などが関係することを示した。ICFは「障害の社会モデル」と「障害の医学モデル」を統合したものであるが、その使われ方は医学的視点が支配的であるかのように捉えられていることが課題である。またICFには貧困やジェンダーによる複合差別などの視点が含まれていないため、環境要因を明らかにする分析枠組みとしては限界がある。そのためICFの項目にはないが、貧困やジェンダーの課題を重要な要素として取り上げることとした。

第3章では、障害者の社会参加に関わる文献調査の結果を提示した。障害者の社会参加を阻害する要因として、障害者白書を参照し、「物理的障壁」「制度的障壁」「文化・情報の障壁」「意識上の障壁」があることを示した。またこれらの障壁に加え、第2章で示した「障害と貧困」「ジェンダーと障害」が関与することを示した。他方、障害者に対する差別や偏見、また生活環境や職場などにおける合理的配慮の必要性について示した。

第4章では、調査対象国であるウズベキスタン共和国の自然環境や社会的・歴史的背景について示し、障害者の現状について、障害者関連制度、障害者統計、障害者がいる世帯の家計、障害者の雇用と就労環境、そして障害当事者団体の現状といった視点から記述した。地域社会に属することによって家族関係や友人関係を固く結び、生活満足度を高めていることがわかった。

第5章では、ウズベキスタン共和国の文脈での文面調査の結果を提示した。障害者の社会参加に影響する要因として「障害者権利条約の変遷と社会保障」「伝統的な障害観」「物理的な生活環

境」「地域コミュニティ・マハッラ」「障害者の就労状況」「女性障害者の現状」などの視点で調査を進めた。

第6章では、第5章で提示した文献調査の結果について、環境要因に主眼を置いて分析を進めた。分析結果として「障害者権利条約の変遷と障害者福祉制度、社会保障やサービス」「障害観と差別意識」「生活環境と物理的なアクセシビリティ」「伝統的な地域コミュニティ」「就労環境と暮らしの経済的負担」「ジェンダーの課題」などが複雑に絡み合い、障害者の社会参加に影響を与えていることが明らかとなった。これらの要因はそれぞれ、社会参加に促進的に作用する要因もあれば、阻害的に作用する要因もあることがわかった。

また、分析から明らかになったこれらの要因が、どのように障害者の社会参加に負の影響を与えているかについて6つの論点で整理し、考察した。考察の結果「障害者への不適切な福祉サービス」「健常者から障害者へ受けられる差別意識」「物理的なアクセシビリティの欠如」「障害者の就労状況と貧困」「障害者女性が抱えるジェンダー課題と複合差別」などの要因が、社会参加に負の影響を与えていることが明らかとなった。

第7章では結論、課題と可能性について示した。ウズベキスタン共和国は独立から約30年が経ち、社会主義から民主主義国家へと変化している最中であるものの、依然として旧ソ連圏の名残が強く残っている。諸条件が改善され、障害者の社会参加に負の影響を与える要因の研究が活発となり、社会参加拡大に向けた取り組みが進むことが期待される。

また本論では結論として、障害者の社会参加に負の影響を与えている要因を明らかにしたが、それぞれの関連性については分析しておらず、阻害要因の相互作用までは示していない。